

当社のDXへの取り組みについて

※'24/2/14 編集

当社は、急速に変化する国際物流を取り巻く環境下において、デジタルトランスフォーメーション（DX）に積極的に取り組んでまいりました。サプライチェーンの高度化に伴い、不確実性と変動性がいっそう高まる中、DXがますます不可欠となり、変革スピードがさらに求められるものと考えています。

このような環境の下で、現代に即し、未来を見据えた新たなイノベーションを創出すべく、当社の企業理念を「創発」と改定しました。「創発」とは、個々人の能力や発想を組み合わせる創造的な成果に結びつける取り組みであり、革新や進化の源泉ともいえる重要なプロセスを指します。異なる視線を数多く掛け合わせて、新しいアイデアを生み出していくことでもあります。

当社は、DXへの取り組みを通じ、新たな価値の創出を目指し、お客様のご期待を超えるサービスを提供することを目指しています。

また、同時に業務プロセスの最適化も推進し、より効率的で持続可能なサービスを提供してまいります。

革新的な発想と、変化に適応する柔軟性が、競争力の源となるものと信じ、お客様により付加価値の高いサービスを提供できるよう、これからも取り組んでまいります。

株式会社エーアイティー
代表取締役社長 矢倉 英一

✓ 基本理念：「**創発**」

- ✓ 経営方針：
1. 創発により、変化の激しい環境に適応し、お客様と共に持続的に成長します。
 2. お客様のニーズに基づいた拠点網を拡充し、組織全体が創発により有機的に結びつき創造性あふれる活発な組織を構築します。
 3. 一人ひとりの想像力を高め、創発が生まれる企業文化を作ります。
 4. 世界に挑戦できる主体的・自律的な人材を育成し、創発による変革を実現します。

✓ 目指す姿勢：「**創発的発想**」により、常に革新を目指す

※創発とは…

部分の単純な総和にとどまらない性質が、全体として現れること。局所的な複数の相互作用が複雑に組織化することで、個別の要素の振る舞いからは予測できないようなシステムが構成される現象。(wikipediaより)

DXへの取り組みにおいても、個々の能力や発想を組合せることで、創造的な革新を目指す。



既存のビジネス/アイデア

+



既存のビジネス/アイデア

=



創発的
イノベーション

Procedure

クラウドサービスの積極活用

オンプレミス中心の構成からSaaS、PaaSといったクラウドサービスを組み合わせる構成へシフトし、ハードウェアの調達期間を短縮し、顧客および社内のニーズの変化に対して柔軟な対応が可能とする。これにより競争力強化を実現。

イノベーション促進および定型業務の自動化

ノーコードツールを積極的に活用し、現場からの自発的なアイデア創出活動を促進。
また、RPA導入により定型業務を自動化し、間接業務工数を削減し、従業員の生産性向上や、さらにはより創造性の高い業務へのシフトを企図。

データ集約・可視化

デジタル化によって蓄積されたデータをBIツールにより集約・可視化し、経営戦略・営業戦略に活用。

セキュリティ・BCP対策

基幹システムや顧客向けシステムなど当社にとって重要度の高いシステムをデータセンターやクラウドへ移設。機密性・完全性・可用性を確保した環境構築を実現。

Objectives

事業変革=顧客価値の創造 (攻めのDX)

- ・コミュニケーションツールとしての、“CIS” (※) のプラットフォーム化によるお客様、お取引様への利便性の向上
- ・新たな価値創出により、顧客価値の創造を目指す

業務効率化、データ可視化 (守りのDX)

- ・業務処理の効率化、省力化
- ・業務プロセスの最適化、再設計
- ・各種データの可視化
- ・請求書発行の電子化 etc...

Goals

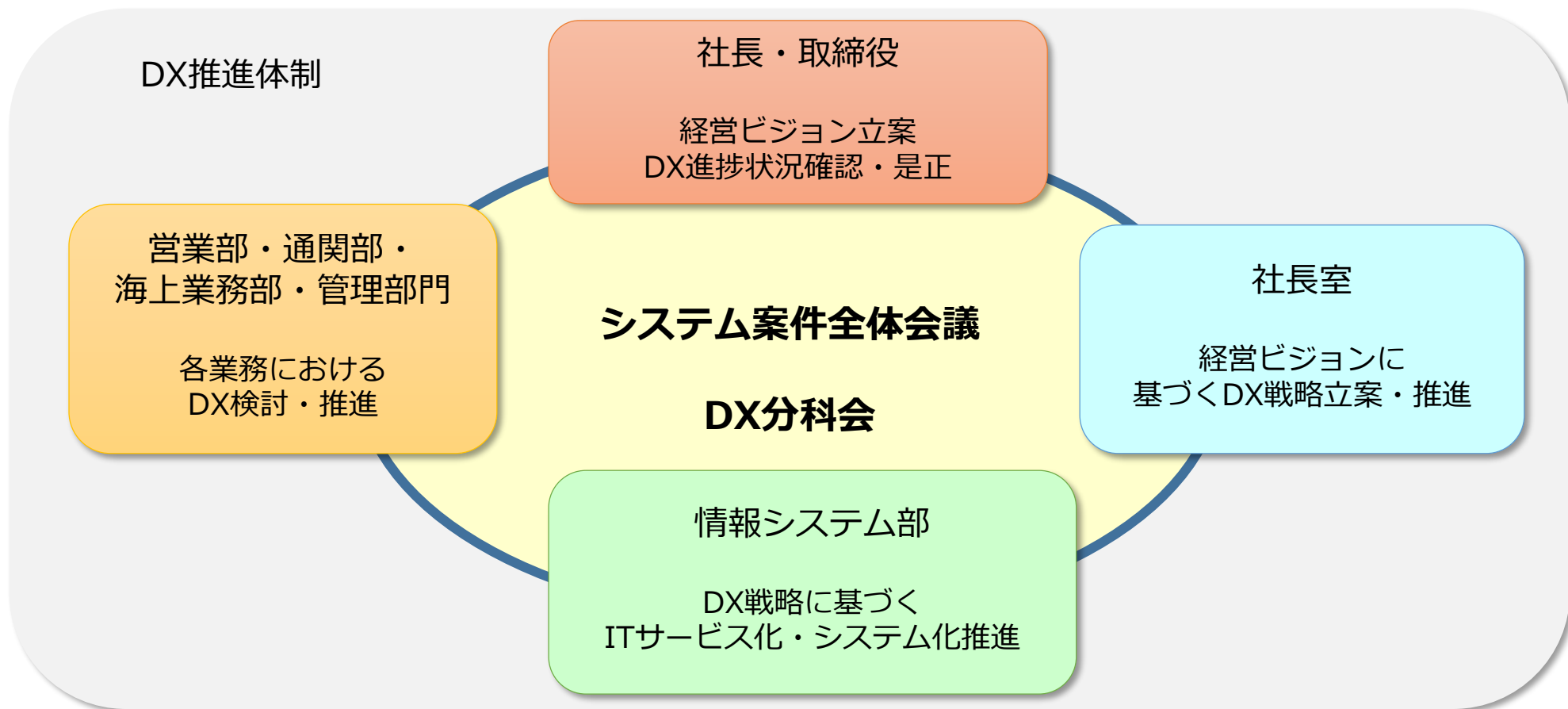
顧客価値の最大化

全てのステークホルダーからの信頼

持続的な成長

※ = Cargo Information Service

お取引先様ごとに、輸送手配状況をご確認頂いたり、通関業務の受渡等を含め、コミュニケーションを行って頂けるクラウドサービス。



システム案件
全体会議

DXに関わるシステム案件の進捗状況をモニターし、重要度や優先度により案件の継続可否の判断や実施順序を調整する。

DX分科会

個別の案件毎に、各部門より分科会メンバーを選抜し、各部のビジネス要件を分科会にて集約し、デジタルにより業務を最適化してDXを実現する。

✓ 創発人材の育成

公募型の創発人材育成研修を実施。グロービス経営大学院（MBA）の単科受講制度グロービスマネジメントスクールに3ヶ月間通学し、他社優秀人材と異文化交流をしながら能力向上及び新たな価値観・視点を取り入れる。修了後は研修参加者全員で新サービス案や事業課題解決案を考案する分科会を組み、2ヶ月の検討期間を経て企画を立案。

✓ DX人材の育成

デジタル技術によるビジネスへの利活用を推進する人材を育成するため、DX検定（日本イノベーション融合学会）のスタンダードレベル以上の認定者に合格祝金支給し取得を推進。

✓ IT技術者の育成

ITスキル向上の為、情報処理技術者試験（ITパスポート、基本情報処理試験、応用情報処理試験の合格者に合格祝金を支給し取得を推進。

✓ 社員のデジタルリテラシー、ITリテラシー向上

外部の動画学習サービスの利用希望者に費用補助を行い、デジタルリテラシーやITリテラシーに関する研修動画による社員のデジタルリテラシー、ITリテラシー向上を支援。

～ 既導入済、もしくは導入見込み（一部検討中）のデジタルツール & システムインフラ ～

クラウドサービスの積極活用

- ✓ レガシー基幹システムの刷新（検討中）
- ✓ 通関業務における関税自動計算システムの利用
- ✓ 社内ワークフロー、顧客管理、社員管理、OA機器情報等の各種管理台帳をペーパーレス化 [サイボウズ社 “KINTONE”]
- ✓ 本船動静情報サービスの利用 [※サービス名 非開示]

イノベーション促進および定型業務の自動化

- ✓ RPAツールの導入 [Microsoft社 “Power Automate”]
(※RPA利用促進のため、社内運用フローの策定をし、
ルールの明確化を平行して実施)
- ✓ ノーコードツール利用による業務自動化 [メシウス社 “Forguncy”]
- ✓ 業務のペーパーレス化を実現するため “DocuWorks” の導入 & 利用促進 [富士フイルム “デジタルイノベーション”]
(※ “マルチディスプレイ化” と平行して導入)

データ集約・可視化

- ✓ EAI(Enterprise Application Integration)により社内の各種システムのデータをリアルタイムで抽出し、BIサーバ基盤へデータ集約 [HULFT社 “DataSpider Servista”]
- ✓ BIサーバ基盤へ集約したデータをBIツールにより可視化、および有効活用化 [Microsoft社 “Power BI”]

セキュリティ・BCP対策

- ✓ レガシー基幹システムの刷新（検討中）
- ✓ 顧客向けプラットフォーム（業務情報可視化、業務コミュニケーション） “Cargo Information Service” のインフラ基盤にクラウドサーバーを採用し、セキュリティと耐障害性を向上 [Amazon社 “Amazon Web Services”]

✓ 主な成果指標

Objectives

業務効率化、データ可視化
(守りのDX)

事業変革=顧客価値の創造
(攻めのDX)

推進基盤の整備

Key Performance Indicator

・ RPAの活用による、実作業工数の削減
見込み時間

・ CIS(※) による通関業務受託件数

・ RPAの実働シナリオ数

・ CISのログインユーザー数

・ BIツール利用による各種数値指標の
可視化による工数削減見込み時間

※ = Cargo Information Service

お取引先様ごとに、輸送手配状況をご確認頂いたり、
通関業務の受渡等を含め、コミュニケーションを
行っているクラウドサービス。

サイバーセキュリティに関する対策

1. 情報セキュリティ基本方針を作成し、機密性・完全性・可用性を確保し、紛失、破壊、改ざんおよび漏洩等のリスクの未然防止に取り組んでおります。

※当社ホームページに「セキュリティポリシー」、「個人情報保護方針」を公開しております。

<https://www.ait-jp.com/security/>

<https://www.ait-jp.com/privacy/>

2. 当社で働く全員を対象とした情報セキュリティ教育の実施、内部監査による情報セキュリティの状況把握と改善の実施に取り組んでおります。
3. セキュリティインシデントに対応するため、全従業員を対象とした標的型攻撃メール訓練を実施しております。
4. 情報処理安全確保支援士が1名、試験合格者が1名在籍しております。